

CSR方針およびCSR重要課題（マテリアリティ）

雪印メグミルクグループは、コンプライアンスやガバナンスを中心とするCSRの取組みを基盤に、事業を通じて社会課題を解決することで持続可能な社会を実現するとともに企業の長期的成長にも繋がる新しいCSRを推進します。

そのために、社内での検討および外部有識者とのダイアログ(対話)を経て、新たなCSR方針を策定し、CSR重要課題（マテリアリティ）を特定しました。

CSR重要課題（マテリアリティ）特定プロセス

STEP1 社会課題の把握・整理

現在から将来にわたって国内外に影響を及ぼす社会課題を、ISO26000*の7つの中核主題の36個の課題とも照合しながら、抽出しました。

STEP2 CSR重要課題（マテリアリティ）候補の分析

抽出した社会課題ごとに、雪印メグミルクグループの事業への影響度および「株主・投資家」「お客様・消費者」「酪農生産者」「流通・ユーザー」「サプライヤー」「従業員」「地域社会」「国際社会」それぞれの立場からみた社会への影響度を「成長機会」「リスク低減」の両面で評価、採点し、それぞれを軸とするマテリアリティマトリックスにマッピングしました。

STEP3 CSR重要課題（マテリアリティ）候補の抽出

マテリアリティマトリックスから雪印メグミルクグループの事業への影響度、社会への影響度がともに評価点が高い社会課題および今後取り組むべき課題をCSR重要課題候補として抽出し、更に各CSR重要課題（マテリアリティ）候補の重点取り組みテーマを設定しました。

STEP4 外部有識者とのダイアログ(対話)

抽出したCSR重要課題（マテリアリティ）候補および重点取り組みテーマについて、消費者団体の有識者および企業倫理委員会委員と妥当性や整合性、具体性について、ダイアログを実施しました。

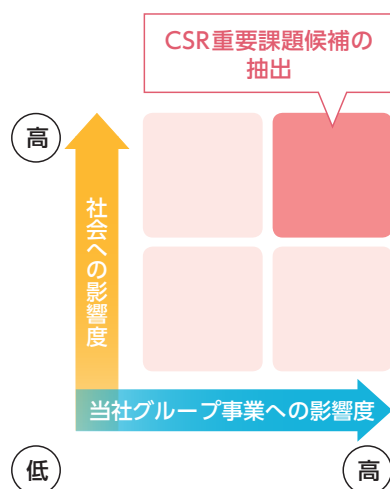
STEP5 CSR重要課題（マテリアリティ）候補の再検討

外部有識者の意見や指摘をもとに、各CSR重要課題（マテリアリティ）候補の重要性や具体性について社内で再検討や見直しを行いました。さらに、企業理念や「雪印メグミルク バリュー」、「グループ長期ビジョン2026」との整合性について精査しました。

STEP6 CSR重要課題（マテリアリティ）の特定

役員間の討議を経て、取締役会にて審議・承認し、CSR方針およびCSR重要課題（マテリアリティ）、重点取り組みテーマを特定しました。

※ 組織の社会的責任に関する国際規格



CSR方針およびCSR重要課題（マテリアリティ）

●CSR方針

企業理念^{※1}に基づき、事業活動を通じて、社会とともに持続的に発展していくための経営を推進します。

[基本的な考え方]

- ・ コンプライアンス^{※2}を基本とし、商品・サービスの安全確保（品質保証）の徹底を最重要項目として取り組みます。
- ・ お客様・消費者をはじめとしたあらゆるステークホルダーを重視し、「社外の目」を反映した経営に取り組みます。
- ・ 持続可能な社会の実現のため、CSRの重要課題（マテリアリティ）を特定し、社会課題の解決に向けて取り組みます。

※1 企業理念は、私たちの使命「消費者重視経営の実践」「酪農生産への貢献」「乳（ミルク）にこだわる」と、コーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」で構成します。

※2 コンプライアンスには、法令遵守はもとより、社内および社会の規範、社会の倫理的価値観の遵守を含みます。

●CSR重要課題（マテリアリティ）

CSR領域	CSR重要課題（マテリアリティ）	重点取り組みテーマ
食と健康	乳（ミルク）による食と健康への貢献	安全で安心していただける商品・サービスの提供
		健康寿命延伸への貢献
酪農	持続可能な酪農への貢献	酪農生産基盤強化への取り組み推進
環境	環境負荷の低減	地球温暖化の防止
		持続可能な資源の利用
		循環型社会の形成
人と社会	多様な人材が活躍できる職場の実現	人材の多様化と人材育成
		ワーク・ライフ・バランスの実現と労働生産性の向上
	地域社会への貢献	地域社会とのパートナーシップ



CSR重要課題 > 乳(ミルク)による食と健康への貢献

雪印メグミルクグループは、乳(ミルク)による食の提供を通じて、人々の健康増進や豊かな食生活に貢献してまいります。また、お客様の声に耳を傾け、商品・サービスに反映することで消費者重視経営を実践し、安全で安心していただける商品・サービスの提供を目指します。



「恵 megumi ガセリ菌SP株ヨーグルト」100gのトクホ取得

雪印メグミルクは、「恵 megumi ガセリ菌SP株ヨーグルト」100gをリニューアルし、3月よりヨーグルトで初となる「内臓脂肪を減らすのを助ける」特定保健用食品(トクホ)として発売しました。

従来からの脂肪ゼロ、砂糖不使用のヘルシーな仕立てで、毎日続けやすい風味はそのままです。現代日本人のための、「ガセリ菌SP株」入り生活習慣ヨーグルトです。

許可表示:

ガセリ菌SP株 (*Lactobacillus gasseri* SBT2055)の働きにより、食事とともに召し上がることで脂肪の吸収を抑え、内臓脂肪を減らすのを助けるので、肥満気味の方で内臓脂肪が気になる方の食生活の改善に役立ちます。



「恵 megumi
ガセリ菌SP株ヨーグルト」
100g

骨の健康を考えた商品

昔から牛乳が「骨によい」と言われてきたのは、カルシウムのおかげだと思われてきました。しかし、雪印メグミルクによる研究で、カルシウムの他にMBP[®]と呼ばれる成分に効果があることが解明されています。

雪印メグミルクグループでは、骨密度を高める働きのあるMBP[®]配合の商品ラインナップを充実させています。また、自治体で開催されるセミナーや医療関係者の集まる学会において、骨の健康に関する啓発とMBP[®]の優れた効果の紹介を行うことで、健康寿命延伸の活動を支援しています。

※ 骨の生まれ変わりに役立つ、牛乳に含まれる微量たんぱく質。

許可表示:

本品は、骨密度を高める働きのあるMBP[®](乳塩基性たんぱく質)を含んでおり、骨の健康が気になる方に適した飲料です。

左より
「毎日骨ケア MBP[®]ブルーベリー風味」50ml
「毎日骨ケア MBP[®]ライチ風味」50ml



食育活動

「食」は、命を育むための最も大切な営みです。また、命の恵みへの感謝や食べ物として口にするまでに携わる人々への感謝、食文化の継承など大切なことも含んでいます。雪印メグミルクでは全国6ヶ所に専任スタッフを配置し、小中学校への出前授業や各種セミナー・料理講習など「食」を通じた皆様の健康づくりのお手伝いをしています。中でも、出前授業は、牛乳・乳製品の大切さや健康価値だけでなく、成長期の子供たちに規則正しい生活習慣とバランスのとれた食事の大切さをお伝えしています。

夏休み親子体験イベント～酪農から食卓まで～

7月に親子で体験できる食育活動として、牧場での乳搾りや仔牛への哺乳体験、工場の生産ライン見学、調理体験などを行いました。参加した方々は楽しみながら酪農や牛乳・乳製品への理解を深めました。



2017年度 食育活動参加者数

約**41,000**名

工場見学

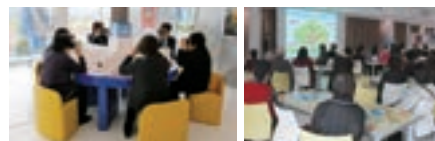
雪印メグミルクグループ全国11ヶ所の見学工場では一般見学用のルートを設け、製造時における衛生管理や検査体制といった安全・安心に対する取組みをはじめとした企業活動の情報発信を積極的に行っています。

2017年 工場見学者数

約**67,000**名

阿見工場「工場見学&チーズセミナー」を開催しました。

阿見工場では初めて「工場見学&チーズセミナー」を1月に開催し、77名のお客様が参加しました。お客様は工場見学後、チーズの知識や歴史が学べる「チーズセミナー」の受講や「とろけるスライスチーズ」のガレット試食など、様々な体験を楽しんでいただきました。



工場見学の様子（VRコーナー） チーズセミナー受講風景

各種セミナーの実施

雪印メグミルクでは、幅広い年齢の方の健康で生き生きとした生活をお手伝いするため、啓発セミナーや料理講習を実施しています。個別の自治体や企業、PTAなどのグループに対して担当者が訪問して行うアットホームなものから、大学・短大の授業として行うセミナーや、メディアと連携して有識者を迎えて行う大規模なセミナーまで、バラエティ豊かに実施しています。

●「骨・カルシウムセミナー」、「チーズセミナー」

骨の健康の重要性、カルシウムの効率的な摂取などについてわかりやすくお伝えする「骨・カルシウムセミナー」や、世界に数多く存在するチーズの種類について知識を深め、



もっとチーズを楽しんでいただくための「チーズセミナー」で、皆様の健康課題の解決、QOL^{*}向上のお手伝いをしています。

他にも、「牛乳・乳製品料理講習会」「チーズを美味しく楽しむ会」「ヨーグルトクッキングの会」で、食の大切さと楽しさを普及すべく、取り組んでいます。

※ 生活の質 (quality of life)。

●乳酸菌セミナー

腸と健康に関する啓発のため、読売新聞主催の乳酸菌セミナー「読売 腸と健康のフォーラム2017」を東京、大阪



で9月に開催しました。両会場とも多くの方が参加され、健康に対する関心の高さが伺えました。

7回目となる今回は「内臓脂肪と生活習慣」と題し、医師による講演、タレントを招いてのパネルディスカッションで、雪印メグミルク独自の乳酸菌「ガセリ菌SP株」の機能性をお伝えしました。

CSR重要課題 > 持続可能な酪農への貢献

雪印メグミルクグループは、酪農家への技術向上と経営安定支援、そして酪農家に対する消費者理解の醸成に向けた取組みにより、国内酪農の持続的な成長に貢献してまいります。



雪印メグミルクグループが取り組む酪農貢献

雪印種苗(株) 1950年～

配合飼料を中心とする「酪農畜産事業」、飼料作物や野菜などの種子・苗木の開発と生産を担う「畑作園芸事業」、屋上緑化などを得意とする「環境緑化事業」を中心に、環境保全型農業の普及を目指した事業活動を行っています。2017年には、北海道研究農場新研究棟が完成しました。



ニチラク機械(株) 1954年～

牛乳・乳製品などの食品工場向けの製造機器メーカー。チーズなどの最終商品を作って販売する酪農家に対しても小型製造機器の提供や技術指導を行っており、酪農家の乳製品製造技術向上(六次産業化)に貢献しています。

酪農経営の調査研究と普及に資する組織

●日本酪農青年研究連盟(酪青研) 1948年～

雪印メグミルク、雪印種苗(株)、ハケ岳乳業(株)が事務局として活動をサポートしています。

●酪農総合研究所 1976年～

民間唯一の酪農専門研究機関として設立。現在は雪印メグミルクの社内研究所として、調査研究や酪農サポートのほか、毎年シンポジウムを開催しています。

●酪農諮問委員会 2009年～

高い見識と豊富な経験を有する酪農生産者、有識者委員からご意見・ご助言をいただいています。



酪農諮問委員会

酪農理解のためのPR施設

●(株)雪印こどもの国牧場(横浜市) 1965年～

様々な体験を通じて「食と命」を感じ取り、酪農への理解を深めていただくための活動を行っています。



●酪農と乳の歴史館(札幌市) 1977年～

歴史を振り返ることで、酪農への理解と関心を深めていただいています。北海道遺産、近代化産業遺産に登録されています。



日本酪農青年研究連盟（通称：酪青研）

戦後、酪農の復興に取り組む青年たちの自主的な活動に共感した黒澤西藏^{*}が大きな原動力となり、1948年に酪青研が誕生しました。現在は全国約1,000名の酪農生産者で組織する、日本で最も歴史ある実践的研究団体です。雪印メグミルクグループでは、設立当初より事務局を担い、日本酪農研究会、海外酪農研修、中堅会員研修会、レディース全国の集い、地域での活動などの支援を続けています。

2017年、酪青研は創立70周年を迎え、11月には発足の地である札幌市で「日本酪農研究会・酪青研創立70周年記念大会」を開催し、全国から約450名の参加者が集まりました。

経営発表では、総合的に最も優秀な経営と評価された原田牧場（北海道 標茶町）の原田様が、最優秀賞の黒澤賞を受賞しました。



第69回日本酪農研究会・酪青研創立70周年記念大会（北海道）



第41回海外酪農研修（ドイツ）



黒澤賞を受賞した原田様



仙北先生によるご講演

アニマルウェルフェアに対する考え方

アニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮した乳牛の飼養管理は、倫理面はもとより、酪農乳業産業の発展（生乳品質向上、生産性向上による酪農生産基盤の強化）に資する有効な手法としても、雪印メグミルクグループの企業理念に沿うものと考えています。

特別講演では、酪農学園大学学園長の仙北富志和先生より「黒澤西藏翁からのメッセージ『心田を耕せ』」と題してご講演をいただきました。

続いて、酪青研と同じく黒澤西藏の思いを受け継ぐ、（学）酪農学園とわの森三愛高等学校（北海道）の生徒の皆様から「つながる酪農人への道」と題して発表していただき、全国の盟友と共に黒澤西藏の酪農発展に尽力した人生とその教えに思いを馳せました。

とわの森三愛高等学校の生徒の皆様からは、「新規就農を目標とする私にとって、とても貴重な時間だった」など、活力あふれる感想を数多くいただき、これからの酪農業界を担う若い方々にも酪農の魅力を発信する場となりました。

※1885年生まれ。雪印種苗（株）、雪印メグミルクの前身のひとつである北海道製酪販売組合連合会、北海道酪農義塾（現・酪農学園大学）の創立者。北海道開発と日本の酪農の発展に尽力した。

1

雪印メグミルクグループの目指す未来とは

2

雪印メグミルクのDNAと価値創造プロセス

3

価値創造を実現する戦略

4

事業基盤構築のための取り組み

5

財務・会社情報

CSR重要課題 > 環境負荷の低減

雪印メグミルクグループは、牛や牧草はもちろん、酪農に適した気候や豊かな自然があってはじめて成り立つ企業であることから、従業員一人ひとりが、環境に配慮した事業活動を心がけています。これからも、ISO14001^{※1}をはじめ、ISO26000^{※2}、GRIによるガイドライン^{※3}、SDGsなどの考え方を取り入れながら、持続可能な地球環境に貢献していきます。

※1 環境マネジメントシステムの基準となる国際規格のこと。

※2 組織の社会的責任に関する国際規格のこと。

※3 国際NGOのGRI (Global Reporting Initiative) が提唱する持続可能性についての報告のための国際的なガイドラインのこと。



雪印メグミルク環境方針

私たちは、「雪印メグミルク行動基準」に則り、環境マネジメントシステム (EMS)*を構築し、環境負荷低減を図ります。
そして、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした事業活動と地球環境の共生に努めます。

1. 法令の遵守

環境法令・条例などを遵守し、法改正などに迅速に対応します。

2. 環境への配慮

省エネルギーと廃棄物の適正管理を実施し、継続的に改善します。

3. 環境意識の向上

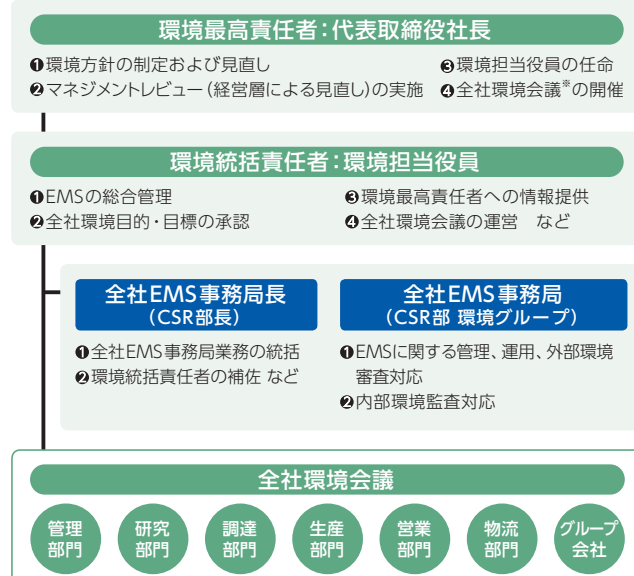
一人ひとりが環境保全に対する自覚を持つとともに、環境教育を積極的に推進します。

4. 環境情報の開示

環境情報を積極的に開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

※ 環境方針、環境目標、計画の策定と実施および監視測定、監査、見直しといった一連のプロセス。

環境マネジメント体制図



※ 全社環境目標の協議と進捗管理を行うとともに必要な措置の決定を行い、EMSが適切で効果的に機能していることを確認する会議。

ISO14001 認証取得

雪印メグミルクは、事業活動が及ぼす環境への負荷を少なくするために環境保全に積極的に取り組んでいます。そして、その成果を内外に客観的に示すため、ISO14001を認証取得しています。2015年にISO14001規格が改正されましたが、2016年には全社(グループ会社2社を含む70場所)で改正後の規格の認証を取得しました。更に2018年2月にはハケ岳乳業(株)でも新たに認証を取得しました。



審査風景(札幌工場)



審査風景(ハケ岳乳業(株))



審査風景(北海道統括支店)

環境監査体制

環境監査には審査機関による外部審査と社内で実施する内部監査があり、EMSの運用状況や法令遵守の状況を総合的に確認しています。

雪印メグミルクの内部環境監査は、生産部が行う第一者監査と、CSR部が行う第三者監査の2種類を組み合わせ実施しています。第一者監査では業務を良く知る監査員による業務改善効果が、第三者監査では客観的な立場からの法令チェックや課題抽出に大きな効果が出ています。



内部環境監査(みちのくミルク(株))

環境教育

雪印メグミルクでは、e-ラーニングのほか、全社EMS事務局が主催する内部環境監査員養成研修、部署独自に実施する個別教育など、各種の環境教育制度があり環境意識の向上を図っています。

教育は対象となるすべての人に実施することが重要です。階層別e-ラーニングのうち、一般教育コースでは全役員・従業員に受講を義務付け、毎年受講率100%を達成しています。



内部環境監査員研修(北海道地区)

各部門による取組み

雪印メグミルクグループは、製品ライフサイクルの各工程で多くの天然資源、エネルギーを使用していますが、その一連の工程で発生する資源のロスや環境負荷をできるだけ小さくするため、各部門で様々な取組みを行っています。

省エネ活動や廃棄物の削減は全社で行っている代表的な活動ですが、研究開発部門では環境に配慮した商品設計を、調達部門ではプラスチック容器の薄肉化や環境に

配慮した容器への変更などを、工場ではエネルギーの効率化や排水の浄化処理などを行っています。また、物流部門では原材料や商品の輸送でモーダルシフト[※]や積載率の向上などを、支店、営業所では全営業車でエコドライブの取組みなどを、管理部門ではクール・ビズやウォーム・ビズによる冷暖房に必要なエネルギーの抑制やペーパーレス化を進めています。

※ 貨物輸送を自動車から鉄道・船舶へと切り替えることでCO₂排出量を削減し、環境負荷を削減する手法のこと。

排水処理能力向上

札幌工場では排水処理設備に、原水調整槽の増設および流動床(りゅうどうしょう)^{※1}の導入を行いました。

原水調整槽の増設により排水原水の貯水量増加による水質均一化が図られて、安定的に排水処理することが可能となりました。

また、既設の曝気槽(ばっきそう)^{※2}と流動床の並列運転が可能になり、曝気槽処理で発生していた汚泥(廃棄物)を前年と比べて約63%減少できました。

※1 上向きに流体を噴出させることによって、固体粒子を流体中に浮遊させた状態を作り出す設備をいう。

※2 排水中に空気を吹き込み、活性汚泥内の微生物を活性化させ、排水を処理する槽(タンク)のことをいう。



排水処理設備(札幌工場)

CO₂排出量削減

工場では多くのCO₂を排出しますが、燃料を重油から液化天然ガス(LNG)に転換するとCO₂が約2割削減されます。これまで重油を使用していた北海道の工場も順次液化天然ガスへの切替を実施しています。

また各工場や冷蔵庫の照明はLEDライトの導入による省エネを進めています。

磯分内工場では脱脂乳濃縮機をより効率的なものに変更し、省エネとCO₂排出量の削減を図りました。



液化天然ガス貯蔵タンク(磯分内工場)

容器の軽量化

プラボトル容器軽量化に取り組み、10%の軽量化を実現しました。

軽量化により2018年度は、年間約200トンのプラスチック使用量削減[※]に繋がる予定です。

※ 2017年度販売実績から算出した見込み値

「恵 megumi ガセリ菌SP株ヨーグルト
ドリンクタイプ ベリーミックス」100g



環境イベント・キャンペーンなどへの積極的な参加

雪印メグミルクでは、環境イベントやキャンペーンに積極的に参加しています。



4丁目プラザ(札幌市)

環境省が企画した「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」に参加し、6月21日(夏至)と7月7日(クールアース・デー)に23拠点で屋外広告の一齐消灯などを実施しました。

また、6月の「エコライフ・フェア(代々木公園)」や12月

の「エコプロ(東京ビッグサイト)」では全国牛乳容器環境協議会の一員として、全国牛乳パックの再利用を考える連絡会と協働



エコプロ

し、牛乳パックの手開き体験や手すきはがきづくり体験、ワークショップなどを通じてたくさんの方々々に牛乳パックリサイクルの大切さと再生紙利用の重要性について啓発しました。

カーボン・オフセットの取組み

カーボン・オフセットとは、植林などの森林保護やクリーンエネルギー事業で得られたCO₂の排出権(クレジット)を購入することにより、企業活動で排出されたCO₂の一部を間接的に削減する制度です。

雪印メグミルクは、従来より「北海道 森と大地のカーボン

クレジット」を購入しており、さらに、11月より中標津町(北海道)の「中標津町町有林J-クレジット」を購入しました。



「中標津町町有林J-クレジット」
購入証明書贈呈式

持続可能な社会の実現に向けた調達活動

「雪印メグミルクグループ調達方針」に基づき、公正な取引、人権・環境などの社会的責任と持続可能性に配慮した上で原材料などの調達活動を推進していきます。また、お取引先様の取組み内容についても定期的に調査を実施しています。

雪印メグミルクグループ調達方針

雪印メグミルクは、グループ企業理念のもと、「雪印メグミルクグループCSR方針」にのっとり、主体的に、企業としての社会的責任に配慮した調達活動をお取引先さまと共に推進し、豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

1. 法令の遵守、社会規範の尊重

- ・関係各国の法令を遵守し、社会規範を尊重して調達活動を行います。
- ・基本的人権の尊重、労働環境の改善等の社会的責任にも配慮して調達活動を行います。

2. 品質・安全性の確保

- ・高品質で安全な商品を提供するための調達活動を行います。
- ・安定的かつ適正な価格で商品を生産できるように調達活動を行います。

3. 公正・公平な取引の実践

- ・お取引先さまとは公正・公平な取引を行います。
- ・調達取引に関わる機密情報および個人情報、適正に管理します。

4. 地球環境への配慮

- ・私たちの基盤である「酪農」は、豊かな自然環境があって初めて成り立ちます。持続可能な社会の実現に貢献すべく、生物多様性を重視し、地球環境に配慮した調達活動を推進します。

紙の使用についての基本的な考え方

雪印メグミルクでは、使用する紙については、可能な限り、持続可能性に配慮したもの、および古紙を使用した再生紙を優先することとし、順次代替を進めています。商品に関わる紙容器や外装段ボールだけでなく、印刷用紙、印刷物、店頭販促資材についても取り組んでいます。

また、雪印メグミルクは、紙の使用についての基本的な考え方に基づき、審査機関が適切な森林管理を行っている森林および流通・加工業者を審査・認証し、独自のマークを付けて持続可能な森林経営を支援している森林認証制度FSC®の認証紙を一部商品のパッケージに採用しています。



FSC®認証紙使用商品



FSC®認証マーク

RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)への加盟

パーム油はアブラヤシの果実から得られる油脂で、近年世界で需要が急速に伸びています。そのため、農園開発がマレーシア、インドネシアを中心に大規模に行われ、多くの熱帯雨林が違法に伐採され、焼き払われたり、農園の労働者問題、特に児童労働などの温床になっていると指摘されています。

パーム油の急激な増産は環境・社会に深刻な問題を引き起こしており、このような問題に取り組むため、2004年にパーム油生産業、小売業、環境NGOなど7つの関係団体が中心となり、認証機関RSPOが設立されました。雪印メグミルクも、健全なパーム油産業の発展を目指す趣旨に賛同し、2018年7月、RSPOに加盟しました。

CSR重要課題 > 多様な人材が活躍できる職場の実現

雪印メグミルクグループは、性別、年齢、国籍、障がいの有無など様々な背景を持つ人が、それぞれの個性を認め、尊重し、互いの能力を発揮することで相乗効果を生み出す企業を目指しています。また、育児や介護をはじめとした多様な働き方をサポートするための環境整備にも注力しています。



働き方改革

雪印メグミルクが2016年度より進めてきた「労働生産性の向上と業務改革」による働き方改革は、目標を上回る時間外労働時間の削減と従業員へのインセンティブ支給による還元など、多くの成果を挙げています。

2017年度には、会議の効率化およびペーパーレス化、タイムマネジメント強化(時間外労働時間の削減)、有給休暇の取得を一層進めるとともに、会議運営や資料作成など、部門共通の間接業務を中心として業務負荷をこれまでの3/4以下に削減する「チャレンジ3/4活動」を部署単位で展開しました。また、2017年度は在宅勤務制度のテスト展開を実施し、その結果を踏まえ改善を加えたうえで、2018年度からは全社展開をスタートしています。

2018年度からは、これまでの間接業務を中心とした働き方改革に加え、研究開発、調達、生産、営業、ロジスティクスなどの全部門が連動して直接業務・コア業務の改革を進め、グループバリューチェーンの生産性向上に取り組んでいます。

時間外労働時間の削減率 ▶

PAGE
24

有給休暇取得率 ▶

PAGE
24

● 2017年度の主な取組み

労働生産性の向上と 業務改革	タイムマネジメントの強化 ※時間外労働時間の目標削減率 20% (2015年上期比)	<ul style="list-style-type: none"> ● パソコンのログイン/ログオフ時刻記録を活用した意識向上 ● 部署単位での時間外労働状況の分析と削減目標の設定 ● 全社目標達成率に応じた従業員へのインセンティブ支給
	有給休暇の取得推進 ※目標取得率 70%以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 記念日休暇やシフト見直しなどによる休みやすい環境の整備 ● 半日有給休暇制度の新設
	チャレンジ3/4活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 部署単位での業務見直しと取り組み効果の目標設定および進捗確認
	業績評価との連動	<ul style="list-style-type: none"> ● 取り組み結果の人事評価への反映
働く環境の整備	効率的な会議の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 会議進行の改善による円滑化・効率化
	ペーパーレス化	<ul style="list-style-type: none"> ● 会議室機材やテレビ会議・ウェブ会議システムなどの整備、文書の電子化などにより、効率的な会議の推進、働く場所の多様化へつなげる
	在宅勤務制度	<ul style="list-style-type: none"> ● 所属長が認めるすべての従業員を対象として導入 (2017年度テスト展開、2018年度全社展開)

人材育成

雪印メグミルクグループでは、「最大の経営資源は人材である」との考えのもと、グループ全体での人材育成に取り組んでいます。雪印メグミルクの新入社



酪農研修

員研修や新任経営職研修にグループ会社従業員が参加しており、2018年度からは階層別研修にも参加します。

また、研修プログラムの充実にも力を入れており、50歳以下の経営職全員を対象として、人材の多様性を尊重するためのマネジメントや、部下の主体的なキャリアデザイン*と自律的な能力開発を促進する「ワークショップキャリア支援」の研修を2017年度より開始しています。

※ キャリアについて考え、「なりたい自分」に向けて自ら能力開発すること。

2018年度には、女性経営職対象の研修を新しく導入するほか、人材の多様性に対する理解を深めるための各種施策をグループ全体で展開してまいります。

区分	役職 職級	階層別研修	新設研修	通信教育 e-ラーニング
経営職	所属長			
	課長	ワークショップキャリア支援	リーダーシップ開発研修 （縦横研修） （工場ロジ）	
	新任経営職	新任経営職研修（基礎） 新任経営職研修（フォローアップ）		アカウンティング応用 タイムマネジメント
一般職	6級	6級昇級時研修	女性リーダー研修	
	5級	5級昇級時研修		プレマネジメント ※6級昇級要件
	4級	4級昇級時研修		ロジカルライティング/ スピーキング ※5級昇級要件
	3級	3級昇級時研修	女性リーダー チャレンジ研修 ・基本研修 ・フォローアップ研修	
	2級	新入社員 研修	工場実習	アカウンティング基礎 ※3級昇級要件
	1級	酪農研修	2年目 フォローアップ研修	

女性活躍推進

多様な人材が能力を発揮する環境を作り上げるための中核的な位置づけとして、雪印メグミルクグループでは「女性活躍推進」に取り組んでいます。



女性活躍推進宣言

<http://www.meg-snow.com/corporate/womanactivation/>

女性経営職比率 ▶

PAGE
24

取組み1：仕事と家庭の両立を支援

出産・育児と仕事の両立を支援するため、休職中の職場との連絡体制や自己啓発、復職前面談などのプログラムを提供しています。これらのプログラムは、女性だけで

なく男性の育児休職者も利用可能です。また、上司に対する啓発も行っています。

取組み2：計画的な人材の育成

キャリアビジョンの実現に向け主体的に行動することへの意識づけや、リーダーが必要とするスキルの習得を目的として、職級に合わせた「女性リーダー研修」「女性リーダーチャレンジ研修」を実施しています。また、キャリアアップへの不安を軽減するために、先輩社員との意見交換や社内の女性社員ネットワークの構築を行っています。

取組み3：女性活躍推進に対する意識の醸成

社内イントラネットや社内報を通じた情報発信で、女性活躍推進に対する意識醸成、制度などの理解へつなげています。

従業員の人権確保

社内および社外の通報相談窓口「ホットライン」を設け、雪印メグミルクグループ全社が利用できる体制を構築しています。従業員の人権確保と働きやすい労働環境整備のため、ハラスメントはもちろん、業務上の相談なども受け付けています。通報には迅速に対処し、一定期間経過

後には、通報者が何らかの不利益を被っていないかを確認し、企業倫理委員会へ報告しています。また、研修やグループ内のCSR情報誌である「CSR情報かわら版」による情報発信などにより、ハラスメント防止に継続的に取り組んでいます。

内部通報制度 ▶

PAGE
63

CSR重要課題 > 地域社会への貢献

雪印メグミルクグループは、事業活動を通じて地域社会と交流し、連携することで、人や社会との調和を図り、地域社会に貢献しています。



北海道包括連携協定

雪印メグミルク、雪印種苗(株)、(株)雪印パーラーは、北海道と包括連携協定を2007年に締結し、乳製品製造などで培った技術を活かして、ともに北海道の経済活性化に取り組んでいます。

具体的な取組み事項

① 「酪農」の振興に関する事項

- ・「環境配慮型酪農」に関する技術支援
- ・チーズ製造技術の普及支援 など

② 「食」の安全・安心、産消協働^{*}に関する事項

- ・クリーン農業に関する技術支援
- ・道産食品の安全・安心に向けた取組みの支援 など

③ 子育てや健康づくりに関する事項

- ・子育てに関する地域活動の支援
- ・食育や健康づくりに関する支援
- ・スポーツの振興に関する支援 など

④ 北海道の魅力ある「観光」の振興に関する事項

- ・「花観光」に関する支援
- ・世界自然遺産
- ・北海道遺産に関する普及啓発
- ・雪印メグミルク「酪農と乳の歴史館」における北海道観光PR など

⑤ その他必要と認める事項

- ・環境に対する取組み
- ・防災活動への支援
- ・北海道の広報活動への協力 など

^{*}地域の消費者と生産者が連携し、地元の資源や生産物を地元で消費・活用することにより、域内循環(人、もの、お金の流れ)を高めて地域経済の活性化を図る運動。

教育事業への参画や協賛

雪印メグミルクは、7月と8月に北海道教育委員会要請の人材育成事業として、北海道標茶高等学校や北海道豊富高等学校でミルクサイエンス研究所スタッフによるチーズに関する特別授業を行いました。参加した生徒は講義を受けたあと、チーズの製造実習を行い、チーズや乳製品についての理解を深めました。

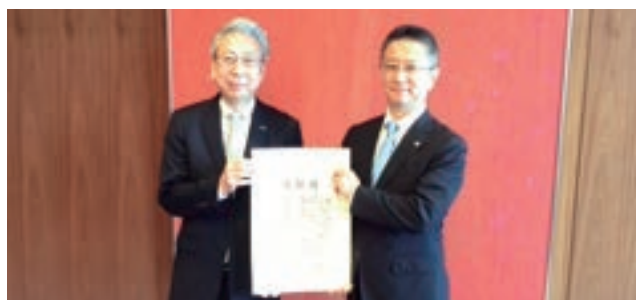


チーズに関する特別授業



チーズの製造実習

さっぽろまちづくりパートナー協定



札幌市岸副市長と西尾社長

2012年3月に札幌市と雪印メグミルクは「さっぽろまちづくりパートナー協定」に調印しました。雪印メグミルクは、「酪農と乳の歴史館」の見学者数に応じ「さぽーと基金」に寄付を行い、子供の健全な育成を支援する活動を応援しています。2017年度も「酪農と乳の歴史館」の入館者1人につき10円を寄付し、札幌市の岸副市長より感謝状が贈られました。

災害対策

災害救援用自販機

(株)エスアイシステムは、災害救援用自動販売機を共同配送センターに19台設置しています。簡単な操作で機内の商品を取り出せる機能で、災害発生などの緊急事態に停電が起きた場合でも、近隣企業や住民の皆様へ飲料を配布する事が可能です。

工場における大規模災害時相互協力

神戸工場、名古屋工場、海老名工場、なかしべつ工場は近隣地区と覚書を締結しています。大規模災害発生時に地域と工場が相互に協力して、避難場所や物資の提供を行い、被害軽減に取り組みます。

すべてのお客様のために(雪印こどもの国牧場)

(株)雪印こどもの国牧場は、「すべてのお客様の期待に応える」という企業姿勢のもと、障がいを持つ方などに対する対応を学びました。「神奈川県障害者自立生活支援センター」に依頼し、従業員を対象にした勉強会を10月に実施しました。自身に障がいを持っている講師2名をお招きし、障がいを持つ方についての説明や、接し方や心配り、介助方法の指導を直接受けました。勉強会実施後、より楽しく、快適に過ごしてもらうために、対応時の配慮や積極的なお声掛け、バリアフリーなどの設備の工夫、改善

を行いました。また、12月に手話ができる従業員が講師となって各部門のミーティング時に手話の講習会を実施し、習得に努めました。



セミナー受講風景



車いすでも利用できる屋外用テーブル

スポーツ振興

雪印メグミルクはスキー部を中心にスポーツを交えた社会貢献を行っています。8月、「酪農と乳の歴史館」において、小学生と保護者が参加する夏休み企画「スポーツと食事」を開催しました。スキー部が協力し、実際に使用していたスキー板やオリンピックで獲得した金メダルの展示に加え、スキー部やジャンプ競技について説明し、スポーツのすばらしさを伝えました。また、子供のバランスの良い食事の大切さも併せて伝えました。1月には「第59回雪印メグミルク杯全日本ジャンプ大会」を主催し、全

国のジャンプ選手が競い合いました。スキー以外にもスポーツ振興と人々の健康づくりを応援する目的で、5月に長野県で行われた「第30回 サッカーマガジン 雪印メグミルクカップ 全国レディース大会2017」に協賛しました。



サッカーマガジン 雪印メグミルクカップ
全国レディース大会

工場開放デー(雪印メグミルク福岡工場)

雪印メグミルクは、6月に福岡事業所設立80周年を記念して、福岡工場開放デーを開催し、子供連れのご家族やご年配の方々まで700人以上のお客様に来場いただきました。会場では、工場見学のほか、商品の試飲や販売、バター作り体験、骨密度測定会、スポーツ食育、スキー部トークイベントなどを催し、地域の雪印メグミルクに対する理解を深めるとともに、よりよい関係の構築に取り組みしました。



バター作り体験



スポーツ食育

マネジメント体制 (2018年6月27日現在)

取締役



にしお けいじ
西尾 啓治
代表取締役社長

主な業務
経営全般



にしば げん
西馬場 茂
代表取締役副社長

主な業務
経営全般社長補佐、監査・ロジスティクス担当



いしだ たかひろ
石田 隆廣
代表取締役副社長

主な業務
経営全般社長補佐、総務・秘書室・人事担当



こうさか しんや
幸坂 真也
取締役専務執行役員

主な業務
総合企画室・管理・関係会社統括担当



つちおか ひであき
土岡 英明
取締役専務執行役員

主な業務
家庭用事業管掌、広域営業・広報・CSR担当



しろはた かつゆき
城端 克行
取締役常務執行役員

主な業務
生産・生産技術担当



こいたばし まさと
小坂橋 正人
取締役常務執行役員

主な業務
酪農担当(酪農部長委嘱)



もとひ ひでき
本井 秀樹
取締役常務執行役員

主な業務
財務(含むIR)・IT企画推進担当、総合企画室及び
関係会社統括副担当



あなん ひさ
阿南 久
社外取締役



ちば しのぶ
千葉 忍
監査等委員である取締役



にしかわ いくお
西川 郁生
監査等委員である社外取締役



はっとり あきと
服部 明人
監査等委員である社外取締役

執行役員

常務執行役員	池浦 靖夫	北海道本部・酪農総合研究所担当、酪農副担当 (北海道本部長・酪農総合研究所長委嘱)
常務執行役員	内田 彰彦	機能性食品事業・資材調達担当
常務執行役員	板橋 登志雄	マーケティング・乳食品事業・市乳事業担当
常務執行役員	末安 亮一	海外事業担当(海外事業部長委嘱)
常務執行役員	川崎 功博	研究開発・商品開発・ミルクサイエンス研究所・品質保証担当
常務執行役員	大貝 浩平	業務製品事業担当
常務執行役員	保倉 一雄	関西販売本部長
常務執行役員	倉持 裕司	関東販売本部長
執行役員	渡辺 滋	広報IR部長
執行役員	柴田 貴宏	生産部長
執行役員	芹澤 篤	ミルクサイエンス研究所長

基本的な考え方

なお、雪印メグミルクは取締役会の監督機能の強化および業務執行の機動性向上を目的に、監査等委員会設置会社を採用しております。

国内証券取引所の規則に従い作成している雪印メグミルクのガバナンス全般にかかる報告書で、「コーポレートガバナンス・コード」の各原則に対応した形で、雪印メグミルクのコーポレート・ガバナンスの体制、対応状況などを記載しています。



2018年3月31日現在



取締役会の構成と機能

雪印メグミルクの取締役会は、取締役(監査等委員である取締役を除く。)15名以内および監査等委員である取締役5名以内で構成し、原則として月1回(四半期決算ごとの取締役会のある月は2回)開催することによって、迅速な意思決定と情報の共有に努めています。

雪印メグミルクでは、取締役会決議によって重要な業務執行(会社法第399条の13第5号各号に掲げる事項を除く)の決定の全部または一部を取締役に委任できる旨、定款に定めるとともに、執行役員制度を導入し、業務の執行と監督を分離しています。取締役会は、一部の重要な事項

を除き、業務執行に関しては業務執行取締役および執行役員に委任することにより、業務執行の機動性を確保するとともに、監督機能の実効性向上を図っています。

取締役会は、企業理念に基づき経営戦略を策定しこれを達成させること、適切に会社の業績などの評価を行い、その評価を経営陣幹部の人事に適切に反映すること、内部統制やリスク管理体制の有効性について継続的な監視を行うこと、および最高経営責任者の後継者計画を適切に監督することをその責務としており、雪印メグミルクグループの持続的な成長と企業価値向上に努めています。

監査等委員会の構成と機能

2018年6月27日現在の雪印メグミルクの監査等委員会は、社外取締役2名と常勤の取締役1名の3名の監査等委員から構成されます。監査等委員である社外取締役は、財務・会計、法務などの分野の専門家から選出しています。

監査等委員は、取締役会、企業倫理委員会、経営執行会議等をはじめとする重要な会議に出席し、適時意見を述べるとともに、適切に情報を収集しています。

また、監査等委員会は、経営陣や社外取締役と適切に連携をとり、情報の共有化を図るとともに、会計監査人および内部監査部門などとの協議を定期的を実施して、効果的監査の遂行に有益な情報の入手をしています。さらに、内部統制システムを活用して、グループ会社を含む業務執行全般に対し、効果的かつ効率的に監査を実施しています。

企業倫理委員会

企業倫理委員会は、雪印メグミルクの取締役会の諮問機関として2002年に設立され、社外有識者、労働組合代表および社内委員によって構成されています。定例委員会を毎月開催し、経営全般に対する「社外の目」による提言と検証を行い、企業活動に活かしています。また、定例委員会のほかに、3つの専門部会が活動しています。



企業倫理委員会

品質部会

工場の品質管理向上のため、品質・衛生管理の専門家である社外委員が工場での監査や従業員との意見交換を行っ



品質部会

ています。指摘事項に対して、工場は改善策を立案・実施し、企業倫理委員会へ報告します。2017年度は、全国8工場にて監査を実施しました。

消費者部会

消費者団体の代表者や消費者問題に関する有識者に雪印メグミルクグループの取組みを紹介し、消費者視点での評価と意見をいただいています。2017年度は、関東地区、関西地区で各2回(9月、3月)実施しました。9月は「雪印メグミルクグループ CSR活動報告書2017」の内容について、3月は雪印メグミルクグループにおけるCSRの新しい方向性についてご意見をいただきました。

表示部会

表示に関する専門家である社外委員が、消費者にとって重要な情報源である商品パッケージ表示について、誤解や誤認を起こすことがないか、わかりやすく情報を提供できているかなど、消費者視点に立ち厳しいチェックを行っています。また、社会のトレンドにも留意しながら、必要に応じて自主基準の見直しも行っています。2017年度は6回の部会を開催しました。

役員報酬制度

雪印メグミルクの取締役^{※1}の報酬について取締役会で決議するときは、事前にその内容を監査等委員会に説明します。取締役の報酬は、「固定報酬」と「利益連動給与」によって構成します。「固定報酬」は社外取締役を含む全取締役同額の「基本報酬」と役位に応じた「役位報酬」で構成し、その水準は同規模の他企業とも比較のうえ、雪印メグミルクの業績に見合った金額を設定します。また、「利益

連動給与」は常勤取締役^{※2}を対象に中期経営計画で示した雪印メグミルクグループ連結営業利益を支給指標とし、支給額の60%は役員持株会へ拠出して、退任時まで保有することで株主との価値の共有化を図ります。監査等委員である取締役の報酬は、「固定報酬」のみとします。なお、取締役の退職慰労金制度は設けません。

※1 監査等委員である取締役を除く。

※2 監査等委員である取締役を除く。

取締役会の実効性評価

雪印メグミルクは取締役会の実効性を確保し向上させるため、取締役の自己評価に基づく取締役会の評価を毎年実施し、その結果の概要を開示します。

2017年度の評価結果の概要は以下のとおりです。

実施内容

すべての取締役に対し、次の大項目を内容とするアンケートを実施し、全員から回答を得ました。その結果に基づき、取締役会で議論し、今後の対応策を検討しました。

●アンケートの大項目

- (1) 取締役会の構成
- (2) 取締役の運営
- (3) 自身の参画姿勢
- (4) 取締役会の役割・責務
- (5) ステークホルダーとの関係

分析・評価結果の概要

- (1) 雪印メグミルク取締役会は、自己評価の分析の結果、概ね有効に機能しており、全般的に取締役会の実効性が確保できていると分析・評価いたしました。
- (2) 一方で、さらに取締役会の実効性を高めていく観点から、取締役会における審議活性化の取組みや社外取締役への情報提供を継続する必要があること、また、社会情勢・経営環境の変化に対応した取締役会の構成や、さらなるステークホルダーの視点の反映に向けた取組みについては、今後継続的に検討していくことを確認いたしました。

今後の取組み

雪印メグミルク取締役会は、各取締役からの意見、さらには雪印メグミルク連結子会社である雪印種苗(株)の不祥事を踏まえ、認識された課題の解決および適切な評価の継続によって、さらなる取締役会の実効性向上に努めてまいります。

社外取締役の選任理由

雪印メグミルクは社外取締役を3名選任し、業務執行から独立した立場で監督します。雪印メグミルクは、会社法および証券取引所が定める基準をもとに、独自の社外取

締役の独立性の判断基準を制定し、基準を満たす取締役を独立役員として届け出ています。

氏名	選任の理由
阿南 久	過去に直接会社の経営に関与した経験はありませんが、消費者団体において豊富な経験を有し、消費者庁長官を務めるなど、特に消費生活などの分野に精通しており、雪印メグミルクの経営に対する助言、提言および監督に活かすことができると判断したため。
西川 郁生	過去に直接会社の経営に関与した経験はありませんが、公認会計士として財務・会計に関する専門的で高度な知識と幅広い経験を有しており、取締役の職務執行に対する監督・監査に活かすことができると判断したため。
服部 明人	弁護士として企業法務に精通しており、高い専門性を取締役の職務執行の監督・監査に活かすことができると判断したため。

社外取締役メッセージ



あなん ひさ
阿南 久
社外取締役

私の役割は、「社外の目」で会社の経営を監視し、意見を述べることです。そのものさしは、企業理念です。企業理念に基づいて、私は、①消費者の安全と健康を考えた商品づくりや正しい情報提供が行われ、常に消費者の声を聴き応えているか、②酪農生産者の期待に応え日本の酪農の発展に寄与しているか、③ミルクの価値を高め、広げていっているか、という視点で監視し、指摘や提案を行っています。

企業理念は社会に存在を認めてもらうための「約束」ですから、もし反するようなことをしたら、約束を守れない会社として、信頼を失います。過去に経験した通りです。

「雪印種苗(株)の不祥事(P.63)」に関しては、大変重く受け止めており、企業倫理委員会の委員長として、今後はもっとグループ全体に視野を広げ、責任を果たしていきたいと思っています。



にしかわ いくお
西川 郁生
監査等委員である社外取締役

上場企業に近年厳しく求められるコンプライアンスの中心に企業開示制度があります。財務報告など、会社の状況をステークホルダーに正確に伝えなければなりません。私は会計基準作りに携わった経験を活かし、雪印メグミルクの開示の適正性を社外監査等委員としてモニターしています。

雪印メグミルクは、社外有識者による企業倫理委員会(品質部会、消費者部会、表示部会を含む)の指導や助言を得て、食の安全と安心の確保に努めています。そのような理想的な活動を行っている雪印メグミルクですが、今後は新しい目標を社会に広く宣言して行うことが大事だと思います。例えば、ダイバーシティでは雪印メグミルクはすでに「女性活躍推進」宣言として公表していますが、具体的に高い目標を設定することで、従業員が生き生きと働きながら社会に貢献する会社としてさらに発展して行くことを期待しています。



はっとり あきと
服部 明人
監査等委員である社外取締役

適正適切な企業統治を確保することが企業のすべてのステークホルダーのために不可欠です。他方で企業不祥事や隠ぺいがあとを絶たない現実もあります。社会常識に照らして私心なく行動すること、風通しのよい議論を社内で行うことという当たり前のことをしっかりと積み重ねていくことが重要なことと考えます。

この度、新たに拝命した監査等委員の職責を通じ、雪印メグミルクの素晴らしさを活かし企業価値を高めることに少しでも貢献できるよう、努めていきたいと存じます。

弁護士としてトラブルに遭遇した個人や企業に寄り添い、サポートする仕事を30年近くさせていただいてきました。依頼者にいたずらに迎合することなく、依頼者のためだからこそ、時に依頼者の耳に痛いことを身を挺してでも伝えることが大切な場合もありました。客観的な冷めた評論家ではなく、心のこもった応援団の一員として大事な議論に真摯に参加できるよう研鑽していく覚悟です。

1

雪印メグミルクグループの目指す未来とは

2

雪印メグミルクのDNAと価値創造プロセス

3

価値創造を実現する戦略

4

事業基盤構築のための取り組み

5

財務・会社情報

● コンプライアンス

雪印メグミルクグループ行動規範および自主行動基準

「雪印メグミルクグループ行動規範」は、雪印メグミルクグループが社会的責任を果たしていくうえでの行動の基本を示したものです。また、行動規範を具体的に示して、遵守すべき事項をとりまとめたものが、雪印メグミルクグループの各社が制定した自主行動基準です。雪印メグミルクグループの全役員・従業員は行動規範と自主行動基準をすべての活動の基本とします。

宣誓書

雪印メグミルクの全役員・従業員は、自主行動基準を遵守する意思表示として、毎年、宣誓書に署名のうえ、社長に提出します。社長も署名を行い、CSR担当役員に提出します。

雪印メグミルクグループ行動規範

私たち、雪印メグミルクグループは、社会に対して果たしていくべき自らの責任を自覚し、社会とともに成長していくことができるように、以下のとおり行動いたします。

- 私たちを取りまく全ての人たちの気持ちを大切に、誰からも信頼されるよう行動します
- 品質管理を徹底し、安全で良質な商品・サービスを提供します。
- コンプライアンスを徹底し、公正で透明性のある企業活動を行います。
- 会社の財産および情報の保全・管理を徹底するとともに、第三者の権利を尊重します。
- 企業活動を通じて、社会貢献と環境保全に取り組みます。
- 自由と革新にあふれた企業風土を構築し、安全で働きがいのある職場環境をつくります。

2つの事件

雪印乳業食中毒事件

雪印乳業(株)大阪工場製造の低脂肪乳などにより発生した食中毒事件。2000年6月27日、大阪市保健所に最初の食中毒患者のお申し出がありました。調査の結果、雪印乳業大樹工場で発生した停電事故により、製造された脱脂粉乳が汚染され、それを原材料として製造した脱脂粉乳を大阪工場で低脂肪乳などの原料として使用していたことがわかりました。その脱脂粉乳に黄色ブドウ球菌が産生する毒素(エンテロトキシン)が含まれていたことが原因でした。雪印乳業は事件直後の対応に手間取り、商品の回収やお客様・消費者への告知に時間を要したため、被害は13,420人に及びました。この事件によって、社会に牛乳・乳製品をはじめとする加工食品の製造に不信と不安を抱かせるだけでなく、乳等省令^{※1}についての

乳業界の解釈と社会の理解との乖離が明らかになるなど、社会に対して大きな影響を与えました。

雪印食品牛肉偽装事件

雪印乳業の子会社であった雪印食品(株)が、国のBSE対策事業^{※2}を悪用し、安価な輸入牛肉を国産牛肉と偽って申請し、交付金を不正に受給した詐欺事件。2002年1月23日の新聞報道で表面化しました。背景には、前年のBSE牛発生に伴い、食肉業界全体で消費者の牛肉買い控えによる大量の在庫を抱えるという状況がありましたが、最大の原因は、企業倫理に反した当事者の考えや上司の指示が根底にあったことです。事件発覚から3ヵ月後の2002年4月末に、雪印食品は解散するに至りました。

※1 食品衛生法に基づく「乳及び乳製品の成分規格等に関する省令」のこと。

※2 牛の病気の一つである牛海綿状脳症(BSE)発生に伴い、国が行った全頭検査前の国産牛肉の買取り事業のこと。

食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動 ～雪印の事件を風化させない～

「雪印乳業食中毒事件」と「雪印食品牛肉偽装事件」を風化させることなく教訓とし、食に携わるものとしての責任を強く認識するための活動を、2つの事件が発生した6月と1月に2003年から毎年実施しています。6月には、「雪印乳業食中毒事件」当時の大阪工場の製造担当者および大樹工場の品質管理担当者、大阪支店の営業担当者、事件後入

食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動

2003年からスタートして15年 **30** 回目

社の社員が経験談を語るパネルディスカッションを実施しました。1月には、「未来に選ばれる会社～これからのCSR」と題し、CSR情報誌「オルタナ」の森編集長に、「社会課題の解決」と「経済的成果」の両面を実現する「価値創造型CSR」の必要性について講演いただきました。



パネルディスカッション(6月)



森編集長によるご講演(1月)

CSRグループ活動

雪印メグミルクでは、企業の社会的責任について理解を深め、行動につなげていく話し合いの場として、「CSRグループ活動」を2003年から続けています。職場単位で実施され、雇用形態に関わらず、全従業員が参加しています。

企業理念の理解や職場でのCSR推進といったテーマについて話し合うほか、行動基準の読み合わせを毎回行い、コンプライアンス意識の強化を図っています。



CSRグループ活動

「雪印乳業食中毒事件」と「雪印食品牛肉偽装事件」が発生した6月と1月には、原因や経緯を振り返り、当時の報道映像を視聴すること

CSRグループ活動

2003年からスタートして **15** 年目

などで、食に携わる者としての責任感と倫理観を新たにしています。

多様な価値観や異なる意見に耳を傾けることの実践や、職位や立場を超えた交流といった副次的な効果もあり、日常の業務とは違った、組織活性に有効な場としても機能しています。

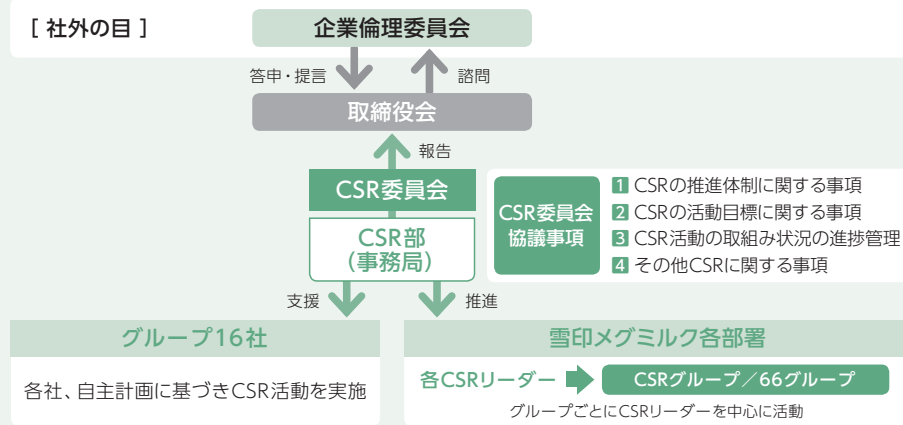
また、グループ会社でも、コンプライアンスを中心に各社の課題認識に合わせて独自で企画した活動を行っています。

CSR推進体制

雪印メグミルクでは、グループ全体のCSRを推進するための経営レベルのガバナンスとして、「CSR委員会」を設置しています。社長が委員長を務め、全常勤取締役および執行役員、CSR部長を委員とし、原則として年2回開催しています。

また、各部署及びグループ会社に配置されているCSRリーダーが、CSRグループ活動の実施などCSR活動の中心的な役割を果たしています。

CSR推進体制図



CSRリーダー

雪印種苗(株)の不祥事について

雪印メグミルクの連結子会社である雪印種苗(株)は、2018年2月農林水産省より種苗法第65条に基づく報告徴収命令を受領しました。第三者委員会の調査により、証票表示などの種苗法違反に加え、品種の偽装とそれらの隠ぺいを図っていたことの事実が判明しました。

種苗法違反については、牧草・飼料作物種子などの表示において登録品種名の未表示、証票表示内容の不備などがありました。原因として種苗法およびその表示義務の重要性を真の意味で理解せず、社員に法令を正確に理解し必要知識を習得するための機会を十分に確保していなかったことにありました。

品種偽装およびその事実の隠ぺいについては、注文と異なる種子の販売を行う偽装行為が2002年まで組織的・恒常的に行われ

ていました。「雪印食品牛肉偽装事件」により、一旦は取りやめたものの、2012年、2013年に再び偽装行為が行われ、この間疑わしい業務処理も多数確認されました。また、内部調査においてはこれらの事実の隠ぺいや記録の改ざんなどが行われました。その原因として、これらの事実を真剣に受け止めず、企業風土を改革しなかったことなど、経営陣に求められる努力を怠っていたことが挙げられ、自ら浄化することが出来ずに長期間続いております。

雪印種苗は再発防止に向けて、企業風土の改革を掲げ、外部の目を入れてコンプライアンス意識とガバナンス体制の確立への取り組みを始めています。

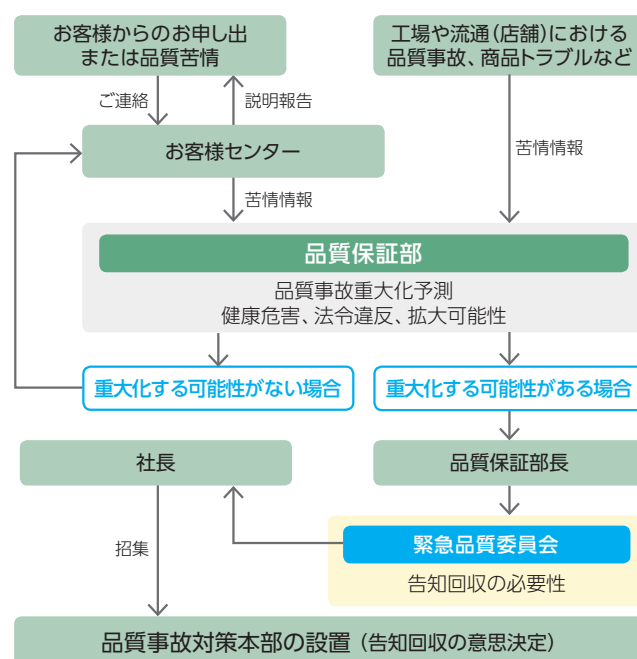
雪印メグミルクグループとしてグループ全体での取り組みを強化してまいります。

危機管理体制

雪印メグミルクは商品・サービスの事故やトラブルについて、迅速かつ適切に対応するとともに、グループ会社のリスクに対する管理を行います。

品質事故対応

日々のお客様のお申し出から入手した商品の品質に関する情報や、工場・店舗からのトラブル・苦情情報を、品質保証部に伝えます。健康危害、法令違反、事故拡大など重大化する可能性があるかと判断した場合には、緊急品質委員会を開催し、事実関係を調査把握し、速やかに必要な対応を講じます。委員会での検討の結果、新聞などでの告知回収など、会社経営上の速やかな決断が必要な場合は、社長を対策本部長とする品質事故対策本部を設置し、対応します。



リスク連絡会

グループ会社のリスクとトラブルの管理を行うため、社長、副社長、監査等委員、総務、品質保証、CSR、広報IR、人事の担当役員および担当部署の長をメンバーとする「リスク連絡会」を原則毎週、本社で開催しています。商品の

品質以外も含めた広範なリスク、トラブル案件について、情報の迅速な共有化を図るとともに、リスク案件への対応のチェックを行います。

内部通報制度

雪印メグミルクグループでは、グループ共通の社内通報相談窓口「雪印メグホットライン」と社外通報相談窓口「社外(弁護士)ホットライン」を併設しています。いずれも、法令違反、社内規定違反やハラスメントなどの重大な行為が発生した場合だけでなく、業務上のちょっとした疑問・相談・

提案なども、制限を設けず受け付けています。通報に対しては、通報者の保護、プライバシーの保護を最優先としたうえで、調査および対応を行います。また、機会あるごとに従業員に対してホットラインの活用を呼びかけています。

● 株主・投資家への情報公開

情報開示の方針・考え方

雪印メグミルクは、お客様・消費者、株主をはじめとするすべてのステークホルダーの信頼が得られるように、正確な企業情報を適時に開示し、透明性のある経営を実践いたします。適時開示規則^{※1}に該当する重要情報の開示は、同規則に従い、東京証券取引所の提供する「TDnetシステム^{※2}」を通じて公開いたします。その後、速やかに雪印メグミルクホームページに同一資料を掲載します。また、適時開示規則に該当しない情報についても、公平な開示に努めます。

※1 「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」のこと。刻々と変化する重要な会社情報を適時・適切に、投資家に対して提供を行うことを定めた規則であり、法定開示を補完する役割を果たしている。

※2 より公平・迅速かつ広範な適時開示を実現するために、上場会社が行う適時開示に関する一連のプロセス、すなわち東京証券取引所への事前説明および報道機関への開示、開示資料のデータベース化、開示資料の適時開示情報閲覧サービスへの掲載を総合的に電子化したシステムのこと。

株主総会

(1) 株主総会において、株主が適切に議決権を行使できる環境を整備します。

- ① 株主の適切な判断に資すると考えられる情報は的確に提供します。
- ② 招集通知の早期開示・発送に努めるとともに、議決権電子行使制度の利用および英訳版招集通知の開示な

どを行い、円滑に議決権を行使できるよう適切に対応します。

- ③ 株主総会は、集中日を回避して開催します。

(2) 株主総会終了後は、全議案の賛成・反対要因の分析を行い、必要に応じて対応策を検討します。

株主・投資家との対話の状況

雪印メグミルクは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のために、株主、投資家と建設的な対話を行い、長期的な信頼関係を構築していきます。

株主、投資家との対話はIR担当役員が統括し、広報IR部のIR担当者が総合企画室、総務部、財務部と連携して行います。報道機関、アナリスト、機関投資家に対しては、上半期ならびに年度末決算に関する説明会を実施します。

また、アナリスト、機関投資家に対して、四半期ごとのスモールミーティングを実施するとともに、必要に応じて個別に対話を実施します。個人投資家に対しては、説明会を適宜実施します。株主、投資家との対話内容は、広報IR部より月次で、役員会などにフィードバックします。また、株主、投資家との対話において、インサイダー情報(未公表の重要事実)は伝達しません。

WEB・冊子での情報提供

雪印メグミルクは、公平性の観点から業績、事業内容、経営方針、中期経営計画とともに、決算発表後、連結の決算短信、決算説明会資料を速やかに、雪印メグミルクホームページ上のIR情報サイトに掲載し、情報発信・開示を推進します。そのほか、雪印メグミルクグループの企業活

動の理解を深めていただくため、「雪印メグミルクレポート」、有価証券報告書、株主通信、ニュースリリースなども同様に掲載します。海外からの閲覧に配慮し、「雪印メグミルクレポート」の英訳版も掲載します。

1

雪印メグミルクグループの目指す未来とは

2

雪印メグミルクのDNAと価値創造プロセス

3

価値創造を実現する戦略

4

事業基盤構築のための取り組み

5

財務・会社情報